

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月14日

【四半期会計期間】 第41期第1四半期（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）

【会社名】 アコム株式会社

【英訳名】 ACOM CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼会長 木下盛好

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

【電話番号】 03-5533-0811（代表）

【事務連絡者氏名】 財務第二部長 木下昭文

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

【電話番号】 03-5533-0811（代表）

【事務連絡者氏名】 財務第二部長 木下昭文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第1四半期 連結累計期間	第41期 第1四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
営業収益 (百万円)	59,878	63,457	245,148
経常利益又は経常損失 () (百万円)	18,578	18,386	69,543
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (百万円)	17,211	16,353	72,187
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	15,733	17,044	70,550
純資産額 (百万円)	353,510	283,798	267,226
総資産額 (百万円)	1,159,750	1,204,475	1,228,930
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 () (円)	10.99	10.44	46.08
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	29.24	22.11	20.34

- (注) 1 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 3 第40期第1四半期連結累計期間及び第41期第1四半期連結累計期間の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 4 第40期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象は存在しません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策などの効果により、企業収益や雇用・所得環境に改善が見られ、個人消費においても緩やかに持ち直しています。今後も景気の回復が期待されるものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響など、わが国の景気を下押しする可能性が、引き続き存在しております。

また、消費者金融業界においては、市場規模が緩やかに拡大しております。一方、利息返還請求は着実に減少しているものの、外部環境の変化等の影響を受けやすいことから、引き続き動向に留意する必要があります。

このような中、当社グループは、「一人でも多くのお客さまに最高の満足を感じていただき、個人ローン市場において社会に信頼されるリーディングカンパニーを目指す」という経営ビジョンの下、ローン・クレジットカード事業、信用保証事業、海外金融事業を中核3事業と位置付け、個人ローン市場におけるシェアの拡大をはかるとともに、市場の健全な成長に貢献すべく努めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間における営業収益は、営業貸付金利息や信用保証収益の増加を主因に634億5千7百万円（前年同期比6.0%増）となりましたが、貸倒引当金繰入額などの増加により、営業費用が454億2千1百万円（前年同期比9.8%増）となったことから、営業利益は180億3千6百万円（前年同期比2.5%減）、経常利益は183億8千6百万円（前年同期比1.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は163億5千3百万円（前年同期比5.0%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

ローン・クレジットカード事業

国内のローン・クレジットカード事業においては、商品・サービス機能の向上、新規集客の拡大、クレジットカード（ACマスターカード）の販売促進、債権内容の健全性維持等に取り組み、当第1四半期連結会計期間末における当社の営業貸付金は7,908億9千4百万円（前年同期末比2.1%増・前期末比0.8%増）、割賦売掛金は413億1千5百万円（前年同期末比38.1%増・前期末比8.4%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績においては、営業貸付金利息の増加を主因に、営業収益が346億6千8百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益は115億1千1百万円（前年同期比4.1%増）となりました。

信用保証事業

信用保証事業においては、新規保証提携の推進や既存提携先との連携強化に取り組み、当第1四半期連結会計期間末における当社及びエム・ユー信用保証株式会社の信用保証残高は合算で1兆1,616億4千6百万円（前年同期末比13.7%増・前期末比2.8%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績においては、信用保証収益の増加を主因に、営業収益が152億8千9百万円（前年同期比16.3%増）となりましたが、営業費用において貸倒引当金繰入額が増加したことなどにより、営業利益は30億5千2百万円（前年同期比27.5%減）となりました。

海外金融事業

海外金融事業においては、タイ王国のEASY BUY Public Company Limitedにおけるローン事業が堅調に推移し営業貸付金が増加、インドネシア共和国のPT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk.における銀行業では、内部管理態勢の強化や債権内容の改善に取り組みました。また、フィリピン共和国における個人向け融資事業進出に向けて、伊藤忠商事株式会社との合弁会社の設立を準備中です。

当第1四半期連結累計期間の業績においては、営業貸付金利息の増加を主因に、営業収益が121億4千1百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は32億2千9百万円（前年同期比17.8%増）となりました。

債権管理回収事業

債権管理回収事業においては、アイ・アール債権回収株式会社では、金融機関における不良債権処理が減少しつつあることを背景に、買取債権市場において競合環境が激化する中、事業の体質強化や収益力向上に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の業績においては、買取債権回収高の減少を主因に、営業収益が13億5千5百万円（前年同期比12.4%減）となり、営業費用においては、貸倒引当金繰入額が増加したことなどにより、営業利益は1億7千3百万円（前年同期比56.2%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末に比べ総資産は244億5千5百万円の減少、純資産は165億7千2百万円の増加となりました。資産、負債、純資産の増減状況は次のとおりであります。

（資産の部）

資産の部については、流動資産が253億8千4百万円の減少、固定資産が9億2千9百万円の増加となり、資産合計では244億5千5百万円の減少となりました。流動資産の主な増減内容は、現金及び預金（350億7千9百万円）、銀行業貸出金（25億5千3百万円）などの減少、営業貸付金（80億7千3百万円）、割賦売掛金（32億5千6百万円）などの増加であります。また、固定資産の主な増減内容は、ソフトウェア（26億6千6百万円）などの増加、投資有価証券（10億1千9百万円）、のれん（2億4千6百万円）、建物及び構築物（1億6千2百万円）などの減少であります。

（負債の部）

負債の部については、流動負債が79億7百万円の減少、固定負債が331億2千万円の減少となり、負債合計では410億2千8百万円の減少となりました。主な減少内容は、借入金・社債（227億7千1百万円）、利息返還損失引当金（163億9千1百万円）、銀行業預金（30億7千7百万円）などであります。

（純資産の部）

純資産の部については、利益剰余金の増加により株主資本が163億5千3百万円の増加、その他の包括利益累計額が5千5百万円の減少、非支配株主持分が2億7千3百万円の増加となり、純資産合計では165億7千2百万円の増加となりました。この結果、自己資本比率は1.8ポイント増加し22.1%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,321,974,000
計	5,321,974,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,596,282,800	1,596,282,800	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	1,596,282,800	1,596,282,800		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日		1,596,282		63,832		72,322

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成29年3月31日の株主名簿より記載しております。

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 29,668,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,566,598,000	15,665,980	
単元未満株式	普通株式 16,300		
発行済株式総数	1,596,282,800		
総株主の議決権		15,665,980	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権30個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式92株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アコム株式会社	東京都千代田区丸の内 二丁目1番1号	29,668,500		29,668,500	1.85
計		29,668,500		29,668,500	1.85

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）及び「特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令」（平成11年総理府令・大蔵省令第32号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	104,939	69,860
営業貸付金	2 930,292	2 938,366
銀行業貸出金	45,872	43,318
割賦売掛金	38,648	41,904
買取債権	11,334	10,824
有価証券	260	1,105
商品有価証券	4,391	3,841
原材料及び貯蔵品	79	80
繰延税金資産	39,106	39,917
その他	69,575	72,941
貸倒引当金	66,685	69,730
流動資産合計	1,177,815	1,152,430
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,289	5,127
器具備品(純額)	10,681	10,659
土地	6,233	6,229
その他(純額)	535	462
有形固定資産合計	22,739	22,478
無形固定資産		
のれん	5,474	5,228
ソフトウェア	5,082	7,749
その他	42	42
無形固定資産合計	10,600	13,020
投資その他の資産		
投資有価証券	5,341	4,322
退職給付に係る資産	4,074	3,941
繰延税金資産	66	17
差入保証金	5,504	5,440
その他	2 3,550	2 3,598
貸倒引当金	762	773
投資その他の資産合計	17,775	16,546
固定資産合計	51,115	52,045
資産合計	1,228,930	1,204,475

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	413	449
短期借入金	17,627	12,577
コマーシャル・ペーパー	14,997	29,997
1年内返済予定の長期借入金	117,907	114,049
1年内償還予定の社債	25,000	14,890
銀行業預金	55,427	52,350
未払法人税等	3,543	3,057
債務保証損失引当金	1 8,722	1 9,292
資産除去債務	18	47
割賦利益繰延	66	65
その他	13,409	12,449
流動負債合計	257,134	249,226
固定負債		
社債	216,838	207,090
長期借入金	313,505	304,499
繰延税金負債	4,037	3,939
役員退職慰労引当金	27	19
利息返還損失引当金	164,900	148,508
退職給付に係る負債	272	283
資産除去債務	4,480	4,441
その他	507	2,667
固定負債合計	704,570	671,449
負債合計	961,704	920,676
純資産の部		
株主資本		
資本金	63,832	63,832
資本剰余金	73,578	73,578
利益剰余金	131,837	148,191
自己株式	19,794	19,794
株主資本合計	249,453	265,807
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4	3
為替換算調整勘定	1,128	1,092
退職給付に係る調整累計額	579	598
その他の包括利益累計額合計	552	497
非支配株主持分	17,219	17,493
純資産合計	267,226	283,798
負債純資産合計	1,228,930	1,204,475

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
営業収益		
営業貸付金利息	38,011	39,440
銀行業貸出金利息	1,750	1,518
包括信用購入あっせん収益	986	1,351
個別信用購入あっせん収益	17	18
信用保証収益	11,982	13,936
買取債権回収高	1,322	1,096
その他の金融収益	¹ 176	¹ 174
その他の営業収益	5,630	5,920
営業収益合計	59,878	63,457
営業費用		
金融費用	² 3,773	² 3,127
債権買取原価	492	460
その他の営業費用	37,120	41,834
営業費用合計	41,386	45,421
営業利益	18,491	18,036
営業外収益		
受取利息	74	66
受取配当金	7	12
持分法による投資利益	6	3
受取家賃	71	69
受取和解金	-	³ 199
その他	17	66
営業外収益合計	176	418
営業外費用		
支払利息	3	2
為替差損	83	-
その他	3	66
営業外費用合計	90	68
経常利益	18,578	18,386

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
特別利益		
固定資産売却益	0	4
投資有価証券売却益	-	25
特別利益合計	0	29
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	13	18
その他	0	0
特別損失合計	13	19
税金等調整前四半期純利益	18,564	18,397
法人税、住民税及び事業税	1,770	2,096
法人税等調整額	1,083	836
法人税等合計	687	1,259
四半期純利益	17,876	17,137
非支配株主に帰属する四半期純利益	664	783
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,211	16,353

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	17,876	17,137
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	2,096	77
退職給付に係る調整額	46	15
その他の包括利益合計	2,142	93
四半期包括利益	15,733	17,044
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,693	16,298
非支配株主に係る四半期包括利益	40	745

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
信用保証業務の保証債務残高	1,129,773 百万円	1,161,646 百万円
銀行業による保証債務残高	939 "	721 "
債務保証損失引当金	8,722 "	9,292 "
差引	1,121,990 "	1,153,075 "

2 営業貸付金の不良債権の状況

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
破綻先債権	714 百万円	746 百万円
延滞債権	24,706 "	24,221 "
3ヵ月以上延滞債権	4,287 "	4,994 "
貸出条件緩和債権	30,111 "	30,555 "
合計	59,819 "	60,518 "

- (注) 1 破綻先債権とは、未収利息不計上貸付金のうち、破産更生債権等その他これらに準ずる貸付金であります。
- 2 延滞債権とは、その他の未収利息不計上貸付金であります。ただし、債務者の経営再建又は支援をはかることを目的として利息の支払を猶予したものを除きます。
- 3 3ヵ月以上延滞債権とは、上記以外のその他の3ヵ月以上延滞貸付金であります。
- 4 貸出条件緩和債権とは、上記以外の当該貸付金の回収を促進することなどを目的に、金利の減免等債務者に有利となる取決めを行った貸付金であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他の金融収益のうち主なもの

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
預金利息	22 百万円	15 百万円
有価証券利息	21 "	72 "
預け金利息	59 "	36 "
為替差益	"	7 "

2 金融費用のうち主なもの

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
支払利息	1,775 百万円	1,577 百万円
社債利息	728 "	688 "
社債発行費償却	87 "	7 "
銀行業預金支払利息	1,003 "	718 "
為替差損	43 "	"

3 当社は、システム開発の中止に係る和解金を「受取和解金」として営業外収益に計上しております。

4 金融収益及び金融費用の四半期連結損益計算書上の表示区分の基準は次のとおりであります。

(1) 営業収益として表示した金融収益

当社及び金融サービス事業子会社について、投資有価証券受取配当金及び利息等を除くすべての金融収益

(2) 営業費用として表示した金融費用

当社及び金融サービス事業子会社について、明らかに営業収益に対応しない利息等を除くすべての金融費用

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	1,014 百万円	1,054 百万円
のれんの償却額	246 "	246 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					その他 (注) (百万円)	合計 (百万円)
	ローン・ クレジット カード事業 (百万円)	信用保証 事業 (百万円)	海外金融 事業 (百万円)	債権管理 回収事業 (百万円)	計 (百万円)		
営業収益							
外部顧客からの営業収益	33,680	13,141	11,509	1,547	59,878	0	59,878
セグメント間の内部 営業収益又は振替高			3		3	47	50
計	33,680	13,141	11,512	1,547	59,881	47	59,929
セグメント利益	11,059	4,210	2,740	395	18,405	47	18,453

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない営業収益及び利益であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	18,405
「その他」の区分の利益	47
セグメント間取引消去	27
親子会社間の会計処理統一等による調整額	10
四半期連結損益計算書の営業利益	18,491

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ローン・ クレジット カード事業 (百万円)	信用保証 事業 (百万円)	海外金融 事業 (百万円)	債権管理 回収事業 (百万円)	計 (百万円)		
営業収益							
外部顧客からの営業収益	34,668	15,289	12,137	1,355	63,450	7	63,457
セグメント間の内部 営業収益又は振替高			3		3	16	19
計	34,668	15,289	12,141	1,355	63,454	23	63,477
セグメント利益	11,511	3,052	3,229	173	17,966	23	17,989

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない営業収益及び利益であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	17,966
「その他」の区分の利益	23
セグメント間取引消去	21
親子会社間の会計処理統一等による調整額	24
四半期連結損益計算書の営業利益	18,036

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10.99 円	10.44 円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額	17,211 百万円	16,353百万円
普通株主に帰属しない金額	百万円	百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額	17,211 百万円	16,353百万円
普通株式の期中平均株式数	1,566,614,208 株	1,566,614,208 株

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 8 日

アコム株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 泰 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 淡 島 國 和 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアコム株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アコム株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。